

# 安浦の昭和史

里や海・昔の言葉まで  
懐かしい匂いがする

安浦町まちづくり協議会



# 安浦の昭和史

里や海・昔の言葉まで  
懐かしい匂いがする

## 発刊にあたって

---

安浦町まちづくり協議会が発行している“まちづくり情報誌 TANTO”に「写真でみる今と昔 安浦町アーカイブ」という記事が連載されていて好評を博しています。

このたび、これまで集まった写真を中心に「安浦の昭和史」として1冊に纏めました。昭和から現在への変化を改めて感じて頂きたいと思っています。

安浦町は昭和19年に誕生し、61年後の平成17年に呉市と合併して現在に至っています。

日常暮らしていて、安浦町は変化に乏しい町と感じられることがあります、写真でみるとずいぶん変化していることがわかります。

道路が良くなり、団地ができにぎやかになった場所もありますが、町全体としては過疎化が進み学校が統廃合され、災害により街並みが変化しました。また祭り等の伝統文化が縮小されています。

安浦町まちづくりの目標である「自然と生きる町」、「人がつながる町」、「みんなが知る町」がどのように変化してきたかを見て、将来の方向について考えることに役立てば幸いに存じます。

沢山の写真を提供してくださった方々に厚くお礼申し上げます。

安浦町まちづくり協議会  
会長 田中敏弘

安浦町が誕生して77年、昭和33年には安登村の一部が編入され、平成17年には呉市と合併し今日に至っています。この間、地域の発展にご尽力いただきました多くの皆様に深甚なる敬意を表しますとともに、この「安浦の昭和史」の発刊を心からお慶び申し上げます。

安浦町は海と山に囲まれた歴史、文化、自然豊かなまちです。そのむかしのまち並みや風景、行事、人々の暮らしなど、当時の姿を今に残す写真は大変貴重な財産です。なつかしい写真が多くあると思います。

この写真集を介して、世代間の交流が増え、人々の会話が弾み、地域の連帯感や絆がなお一層深まること、また、若い世代の方々には、自分たちが暮らす地域の歴史を知っていただくことで、地域への愛着と誇りをもっていただこうことを心から願っています。

終わりに、本写真集の発刊に当たり、貴重な写真をお寄せいただきました皆様、そして編集等にご尽力いただきました皆様に深く感謝しお礼申し上げます。

呉市安浦市民センター  
センター長 有田真



写真：安浦町小熊島と馬島

## 目 次

1 表 紙	
2 発刊にあたって	
3 目 次	
4 昭和史とアーカイブ（今昔）	
①内海地区	4～13
アーカイブ（今昔）	14～18
②三津口地区	19～28
アーカイブ（今昔）	29～33
③中央・駅北地区	34～42
アーカイブ（今昔）	43～47
④安登地区	48～57
アーカイブ（今昔）	58～62
⑤野路地区	63～74
アーカイブ（今昔）	75～79
5 写真協力者・編集後記	80



昭和46年の横町商店街  
内海地区のメインストリートであり、商店が立ち並んでいた。



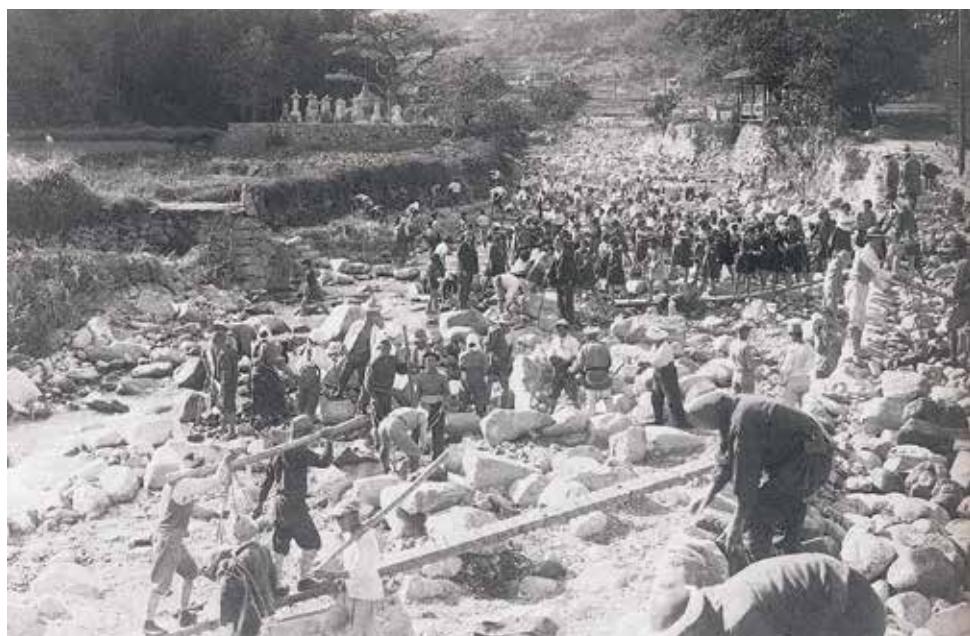
昭和40年頃  
中央の橋は安浦大橋、水尻方面に向かって川沿いに未舗装の道路が走っている。



昭和18年

旧内海小学校講堂兼内海煙草収納所。昭和18年大新開が海軍用地として決定に伴い、この地にあった煙草収納所を小学校北側に移転、改築して講堂兼煙草収納庫として使用することになった。

昭和初期と思われる  
旧内海小学校前の御旅所、亀山八幡神社の祭りと後の○印は忠魂堂跡であり、中央の川は中畠川。



昭和20年

9月に発生した枕崎台風による野呂川復旧作業の写真。河手神社付近では地域の老若男女が復旧に汗を流した。



昭和30～35年頃

亀山八幡神社秋祭り風景、投げ奴や隋兵などが練り歩き、祭りを彩った。



昭和38年

亀山八幡神社の秋祭りは別名  
轍祭りと言われ、町内各地から  
轍が競ってたてられた。



### 牛の爪切り

農家では、昭和30年代前半まで家畜兼農耕用として牛が飼育されており、定期的に牛の爪切りをしていました。また、30年中頃からは耕運機が導入され、このような風景は姿を消した。



昭和10年

呉線三原～呉間が開通し、町内の内海・三津口地区でも記念行事が催された。



昭和35年、内海地区をSLに引かれた貨物列車  
呉線もSL⇒ディーゼルカー⇒電化の道を辿ってきた。



昭和40年安浦駅前を走るディーゼルカー  
今では蒸気機関車の雄姿を懐かしく思う。



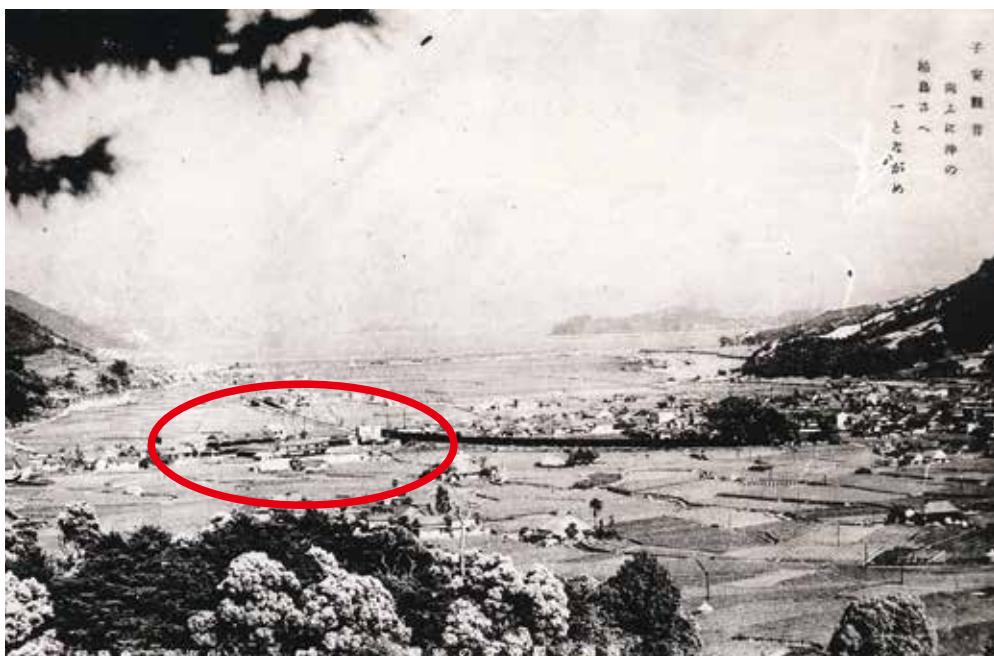
昭和30年代

沐浴を終えて産婆さんに抱かれた赤ちゃん。当時の出産は病院ではなく、家庭もしくは助産所が主流であった。



昭和12年

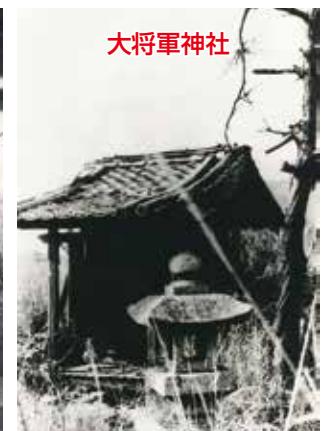
昭和初期の男子は戦争ごっこが盛んに行われていた。左側は日中戦争発生後の戦時色が強まった幼児の服装。



昭和30年代前半と思われる  
西福寺から内海～三津口湾の  
展望であり、大部分は田園で  
あるが、左中段○印に旧内海  
小学校が写っている。



昭和35～40年頃と思われる  
大将軍山から三津口湾を望む。  
今でも頂上には大将軍神社  
と石垣・鬼の引き白という  
大岩が残っている。



昭和39～40年  
30年代中頃から、安浦町では町民体育祭や町内一周駅伝などが開催され、各地区やクラブなどが競い合っていた。





昭和57年頃  
長尾山・龍王神社の祭礼であり、  
地域の皆さんのが守り続けられて  
いる。



昭和35～40年頃  
旧内海小学校・朝礼時のラジ  
オ体操風景。男子は学生服・  
女子はセーラー服で参加して  
いる。



昭和45年  
茶道筋の商店街をすぎると静かな住  
宅地と農地が広がった。宮田邸付近  
と中畑川であるが、茶道筋は黒瀬間  
のメイン道路であり、早くから整備  
が進んだ。



昭和25年頃と思われる  
内海地区の盆踊り風景で、石を拾っては投げ上げる動作から石投げ踊りともいわれていた。

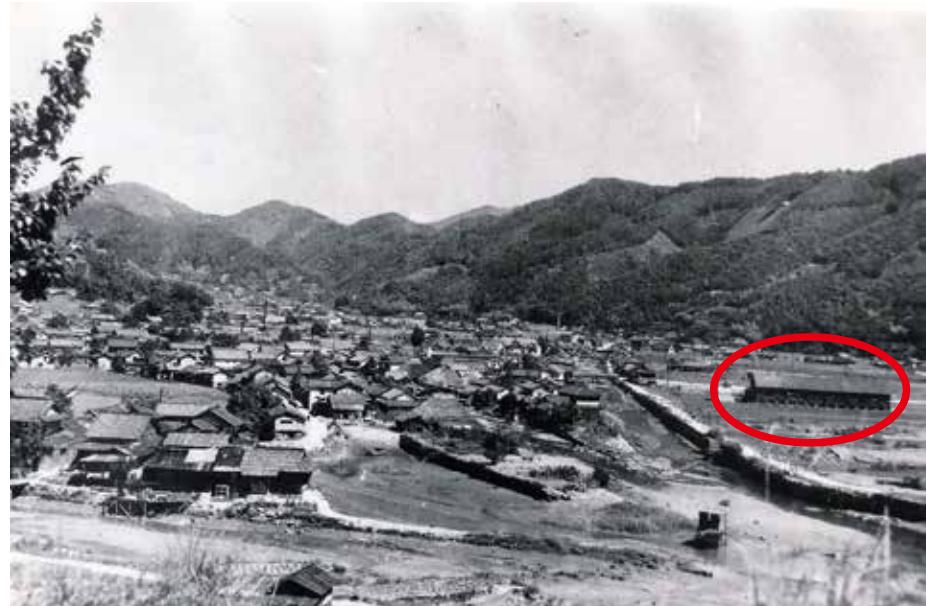
昭和初期頃と思われる  
中切川河口で才崎地区から浦尻方面を  
写したものである。河口が広く機帆船  
が停泊し、後方には大将軍山と住吉神  
社の鳥居がある。



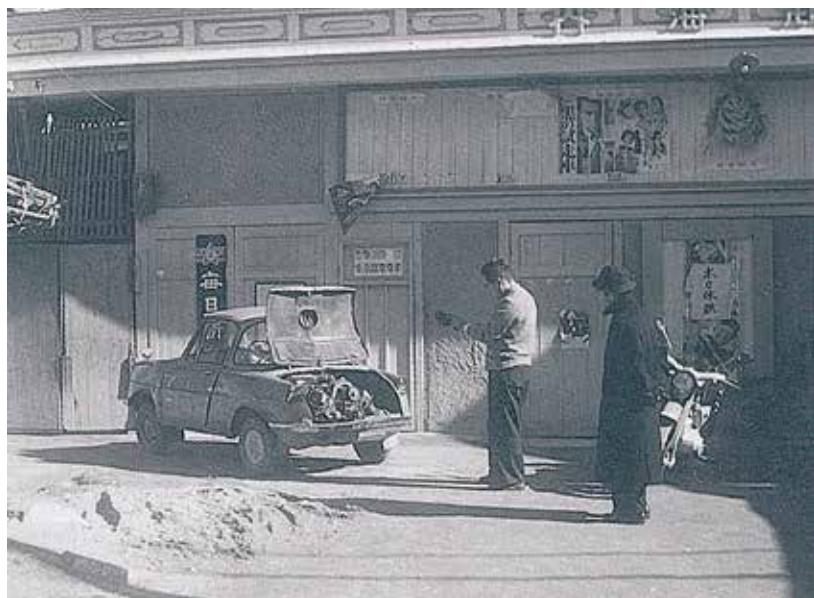
昭和20年頃の亥の子突き  
本来、亥の子は子どもの行事であったが、家の新築時基礎固めにも使用した。



昭和30～35年頃  
旧内海小学校と前の道路、通学中の児童が写っている。右下は中畠川の護岸である。



昭和15年頃  
内海町防護団本部が内海町役場前にあった。勇ましい戦時色の強い垂れ幕が目に付く。



昭和30～35年頃の内海劇場  
当時の娯楽は映画が主流であり、各地に映画館があって大人も子どもも楽しんでいた。

昭和55年  
安浦町水道課は現コスモスの北西奥側にあり、ここの水源から駅北高台にある浄水場まで汲み上げて、配水していた。



昭和40年  
中畠川と野呂川の合流地点に行田造船所があった。現在は廃業されて当時の面影はないが、今でも進水式用のレールが残っている。



昭和38年の旧内海小学校  
手前は消防団屯所と駐在所。



大正末期～昭和初期  
野呂川河口に木造船が走っている。



昭和42年  
児童の交通安全教室の様子。周囲は田園が広がっている。



昭和12年頃

旧内海小学校校庭での防災訓練風景、女性主体で行われている。



昭和32年

昔は茶道筋が安浦～黒瀬間のメイン道路であり、ポンネットバスが走っていた。



昭和30年代

左中段に旧内海小学校と左上部に武智丸が写っている。

# Archive



昭和19年頃

才崎の住吉神社中腹から安浦駅方面を見た写真。駅付近には民家が少なく、農地が広がっていた。



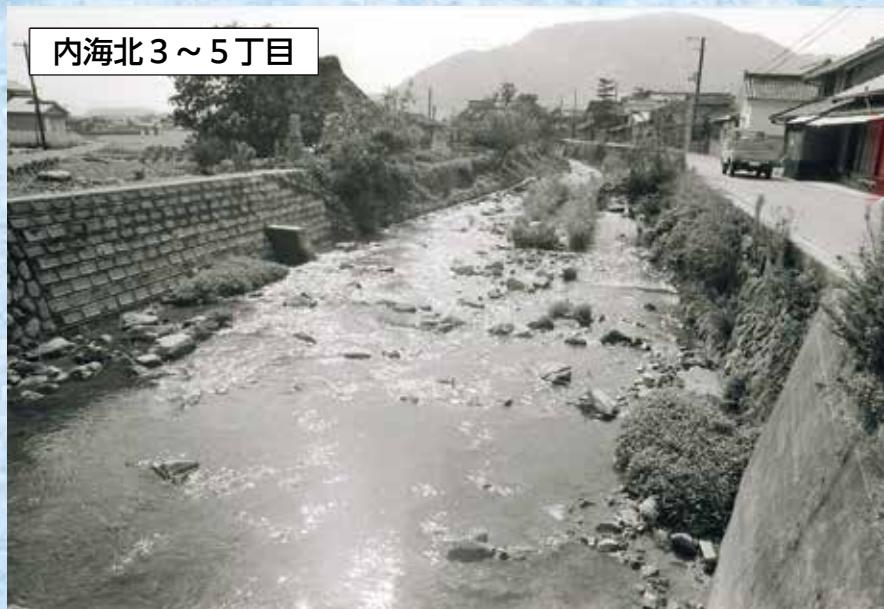
昭和18～20年頃

旧内海小学校風景。中央の2階建て三角屋根があるのが小学校、写真手前に石垣積みの中畠川堤が見え、現在の駅北地区は田園が広がっていた。



昭和15年献穀田の田植え風景

当時は町内のあちこちで献穀田があり、天皇陛下献上のため住民総出で田植えや稻刈りを行っていた。後方に生田医院の建物が見える。



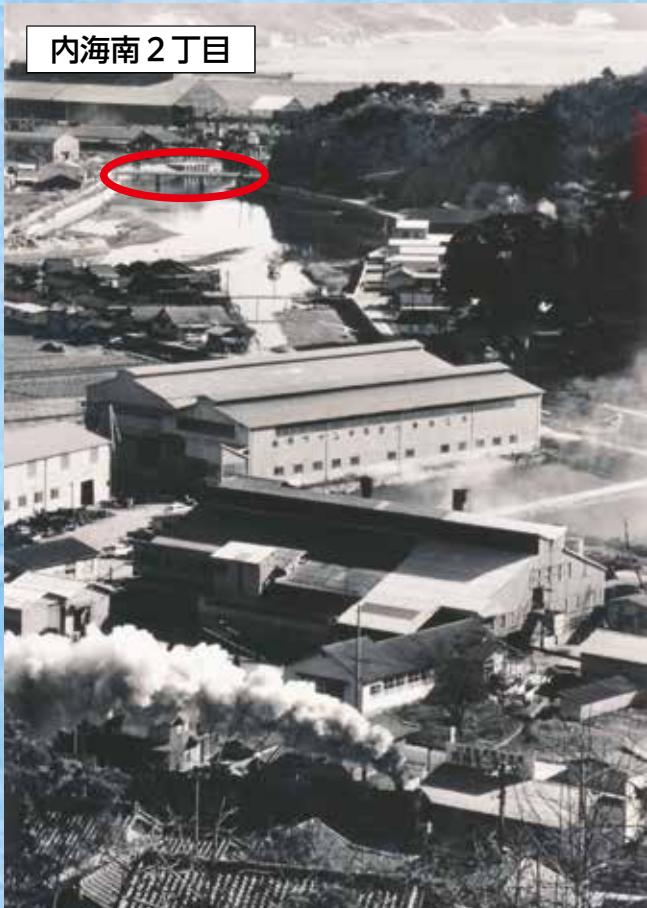
昭和40年代と思われる  
中畠川と並んで茶道筋が走っており、  
安浦～黒瀬間のメイン道路であった。



昭和50年前後と思われる  
藤三安浦ショッピングセンターの敷地  
整備と、写真右側中央には安浦浦尻住  
宅が数軒写っている。



昭和40年中頃と思われる  
川に木造の伝馬船と道路には昭和のレ  
トロな自家用車が写っている。



昭和30年頃と思われる

呉線にSLが走り、野呂川河口と安浦大橋が写っている。(昭和37年呉線完全ディーゼル化実施)



昭和40年中頃と思われる

昭和42年7月豪雨災害の土手修理後で、旧南谷地区には中腹まで田圃が作られている。



昭和9年頃  
当時水尻地区にあった小学校の分教場。現在は集会所となっている。



昭和45年頃  
国道手前の三津口谷川河川護岸工事測量中。



昭和46年頃  
三津口谷川と女子畠地区へと続く旧街道である



昭和34年完成の安浦丸  
陸の孤島であった沖之手・日之浦地区から三津口間に就航した。主に旧三津口小学校や安登小学校の児童を運んだ。



昭和40年代  
柏島神社周囲にはカキの養殖筏が見られる。



昭和10年  
柏島神社参詣のため湾を埋め尽くした機帆船や漁船、海側の船人は前面の船を伝って上陸した。



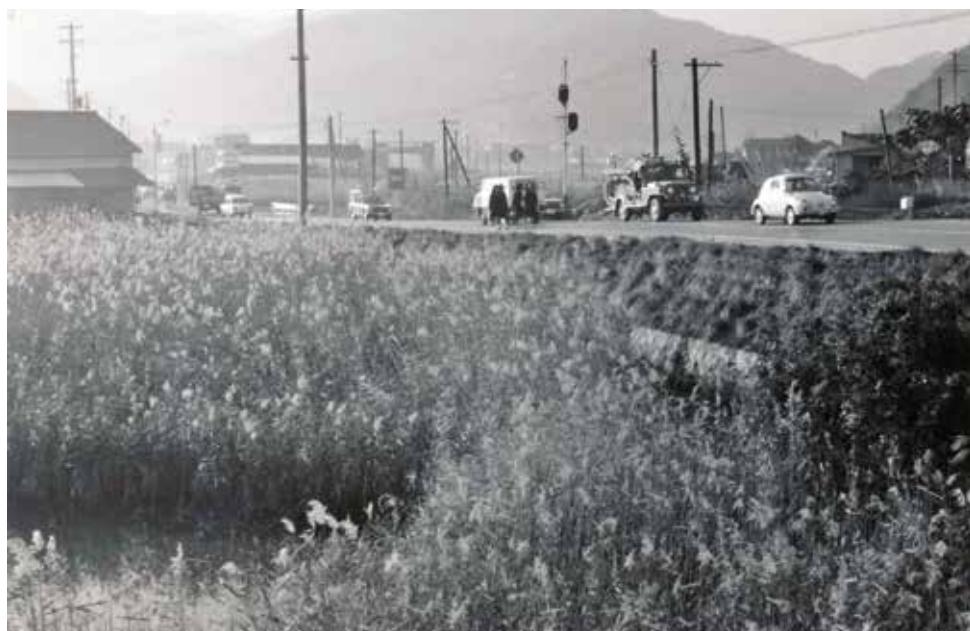
昭和39年

国道185号線道路拡張前の道路、端側の補強は丸太が使われている。



昭和45年頃

三津口漁港前の国道185号線、工事後は片側1車線のガードレール付で立派な道路となった。右側に見える（○印）はコンクリート船武智丸で、まだ波止場と繋がっていない。



昭和60年

現月見公園の前は葦が茂った沼地であり、排水も悪かった。



昭和42年  
三津口漁港手前から飯野山を望む。



昭和43年前後  
国道185号線が完成後、内海（うちうみ）を漁業協同組合が埋立した。その場にノリ作業場ができ、昭和40年頃から生産を始めた。写真は新谷ノリ加工場のノリ天日乾燥風景。

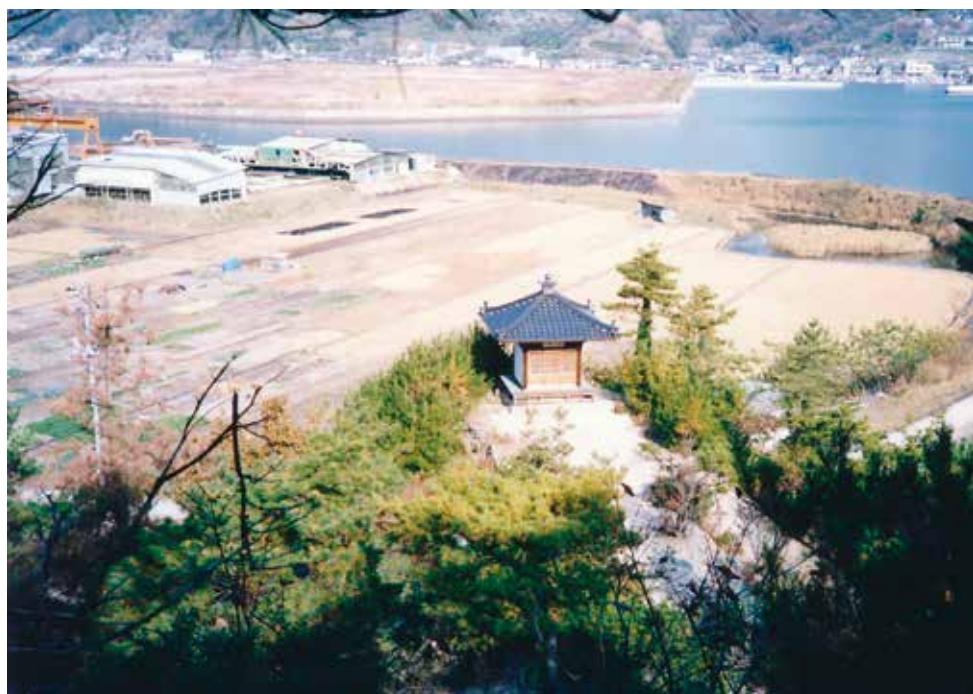


昭和40年頃の葬儀風景 家から棺を担いで寺入りし、火葬場まで地域の皆で野辺送りした。



#### 昭和42年

激増する交通事故防止のため、全国一斉に交通安全推進協議会・町民とともに、漁港前で交通安全パレードを行った。



#### 昭和50年前後

水尻観音堂が小高い丘の上にたっている。崖下は水尻の見龍新開であり、左上面には昭和40年に進出した栄和電気の第一工場である。



昭和45～46年頃

三津口地区は昔から民家が密集しており、商店が連なっていた。

昭和59年

三津口谷の共同墓地にあった樹齢180年の松が松くい虫の被害にあった。協議の末、三津口在住の彫刻家岡本行人氏に依頼し、全長3.2メートルの立像慈母觀音を完成させ、開眼供養した。



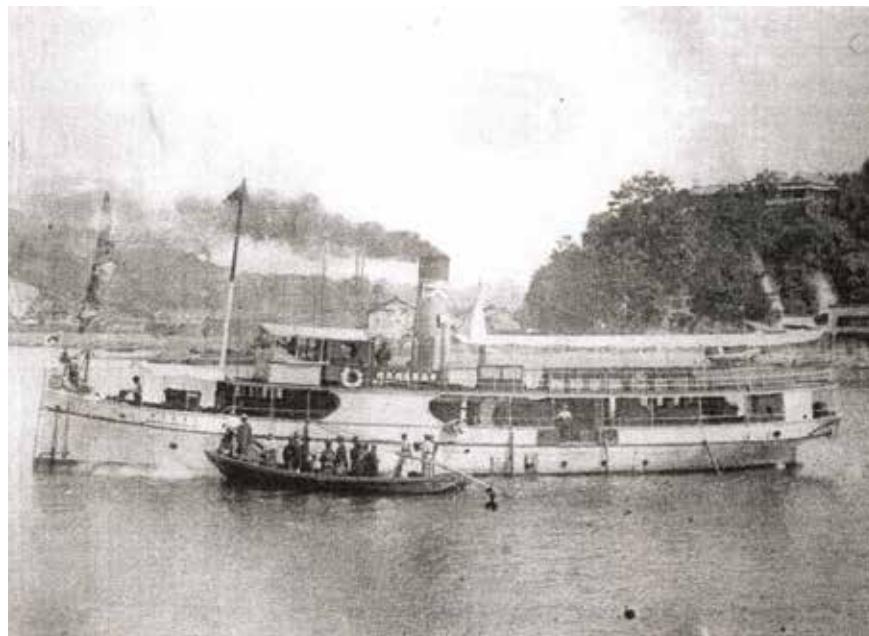
昭和10年

三呉線（三原～呉間）開通記念行事が各地で行われた。



昭和4年の旧三津口小学校と大井回漕店周辺

旧三津口小学校は当時としては斬新な建物であり、第1・2・3校舎とあった。大井回漕店前まで海があり、すぐに荷揚げできた。海が埋立てられ三呉線が開通したことにより、駅前に移転された。



#### 昭和初期頃

内海丸は明治33年、旧内海町岡田惇祐氏が組合を設けて汽船を購入。内海丸と命名し尾道～宇品間を運航した。三津口湾のような浅瀬の港には接岸できないので、沖に停泊し回漕店の伝馬船で旅客や荷物の積み下ろしを行っていた。

昭和10年三呉線が開通すると、汽車の利用者が増えた。



#### 昭和20年頃

神山神社前の防火訓練であるが、男性はおらず、女性だけがバケツリレーの防火訓練をしている。



昭和45年頃

三津口湾入口であり中央に古城材木店の製材所がある。  
また後の海面には製材前の丸太が浮かんでいる。



昭和15年頃の実成塩田1～  
15番浜

大正7年に香川から来た木村仁平氏が蒸気利用式窯を導入、様々な経営改革を加えて発展したが、昭和18年当時の海軍に買収され幕をとじた。



昭和38～40年頃

実成塩田はまだ荒地であり、沼地の西側に町営住宅が写っている。また、IHI運搬機械や日本耕土産業などの建屋が見える。



昭和45年頃

三津口漁港風景であり、コンクリート船武智丸の船首と木造の伝馬船が見える。



昭和49年頃

国道185号線と石灰工場跡地でカキ殻を干し、鶏のエサに混ぜる作業をしていた。



昭和26～30年頃の三津口・田村石灰工業所

明治～昭和にかけて盛んに製造されていた石灰は、安浦の特産で4～5の工場があった。国道が建設され船の積み込み荷が困難となり、やむなく廃業となった。



昭和46～50頃

昭和40年に185号線が開通、40年代終り頃深之浦方面にもカキ処理小屋ができる。

家庭用しょうゆ購入通帳	
昭和24年6月1日発行	
みそ⑧ 購入券 円	みそ⑦ 購入券 円
みそ⑥ 購入券 円	みそ⑤ 購入券 円
みそ④ 購入券 円	みそ③ 購入券 円
みそ② 購入券 円	みそ① 購入券 円
みそ⑩ 購入券 円	みそ⑪ 購入券 円
みそ⑨ 購入券 円	みそ⑬ 購入券 円

家庭用みそ購入通帳	
昭和24年6月1日発行	
みそ⑧ 購入券 円	みそ⑦ 購入券 円
みそ⑥ 購入券 円	みそ⑤ 購入券 円
みそ④ 購入券 円	みそ③ 購入券 円
みそ② 購入券 円	みそ① 購入券 円
みそ⑩ 購入券 円	みそ⑪ 購入券 円
みそ⑨ 購入券 円	みそ⑬ 購入券 円

昭和24年のみそ・しょうゆの購入通帳

戦中・戦後のしばらくは米とともにみそ・しょうゆ等が配給となり、自由に購入できなかつた。



昭和18年  
神山神社前の道を子ども奴行列が進んでいる。



昭和18年  
神山神社の海上パレードと櫂伝馬



昭和18年  
写真中央に見える社叢は元塩釜神社跡。

神山神社の山車櫓  
子どもが山車の上に乗り、太鼓を叩きながら「ハイヤメヤー!!」とはやす。



安浦漁港前



昭和37年漁港前

未舗装で車も少なくのどかである。



水尻（県道川尻安浦線）

昭和45年

水尻から日之浦への県道工事中の写真。



水尻1丁目晴海大橋付近



昭和45年

写真奥の山で子ども達が水晶を探って遊んでいた。また、貯木場もあった。

# Archive

## 三津口地区

三津口深之浦



昭和37年

国道185号線の設置工事中の写真、当時海岸沿いに道はなく船でしか行けなかつた。



柏島神社

昭和45年

柏島神社の旧社殿。大祭ではかつて島全体を囲むほど船が集まり、参拝に訪れていた。

中央6丁目IHI運搬機械付近

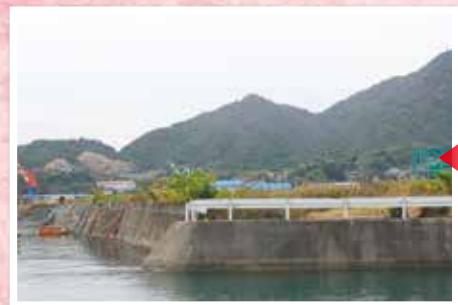


昭和46年

この一帯は帝国製鉄・日伸製鋼など工場や町営住宅があった。



昭和8年  
埋め立てが完了した三津口湾



昭和40年代

完成新開埋め立てが進む前、突端にあった塩釜神社を偲ばせる神社社叢が見える。写真手前は櫂伝馬の練習風景。



昭和29年  
三津口谷川沿いの道路に、手押しポンプの共同井戸もあり、子ども達は子守しながら遊んでいた。



木村仁平氏が完成させた塩田で戦時中  
も昔ながらの塩作りが行われていた。





昭和36年当時の三津口漁港付近  
船は木造船であり国道沿いに3輪トラックが停車している。



昭和37年頃

平地は田圃・裏の飯野山は中腹まで開墾された畑になっており、海辺の地区でも里山のような風景が見られた。



昭和30年代初期

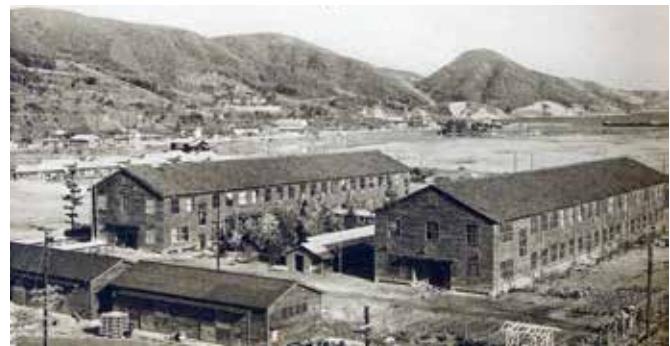
現在の晴海大橋より40~50メートル南側に架かっていた。煙突がある建物は安浦紡績、その奥にある2列の建物が旧安浦中学校である。



昭和45年頃と思われる  
旧185号線・ヤマキ醤油蔵前であり、  
この建物は昭和36年に旧三津口小学校校舎の材料を移築したものである。

写真右：昭和30年頃の安浦中学校

現在のIHI山本運搬輸送機の場所にあり、  
旧海兵团の建物であったが、昭和35・36年  
に2度の火災で焼失した。

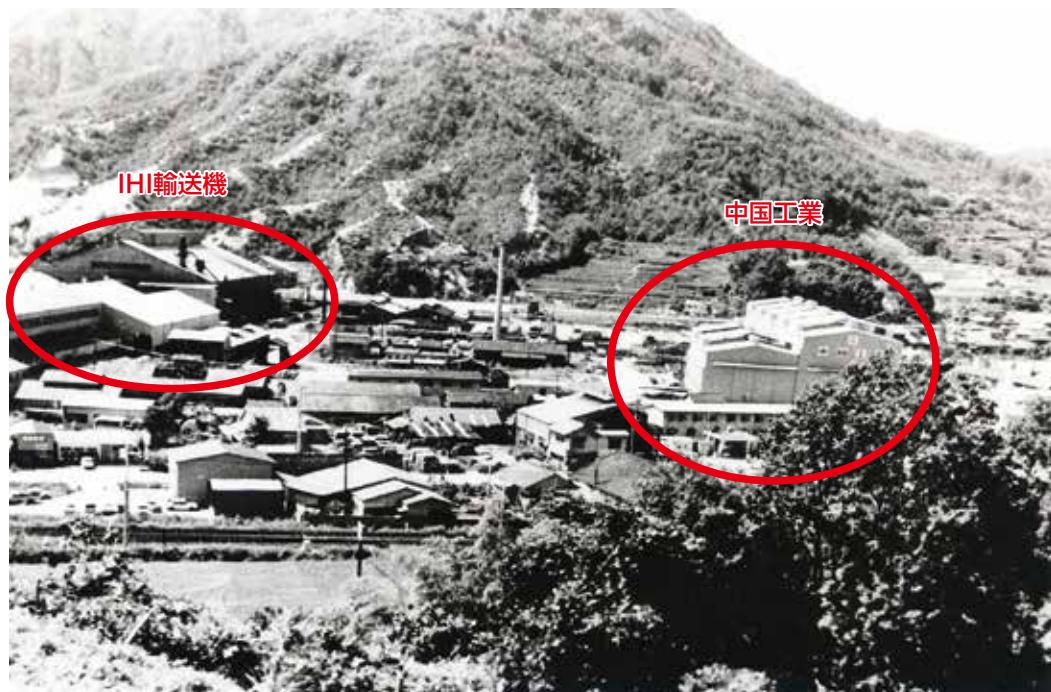


写真下：2代目安浦中学校

2度の火災で旧三津口小・旧内海小に間借り  
分散授業していたが、昭和37年現在地に  
再建された。



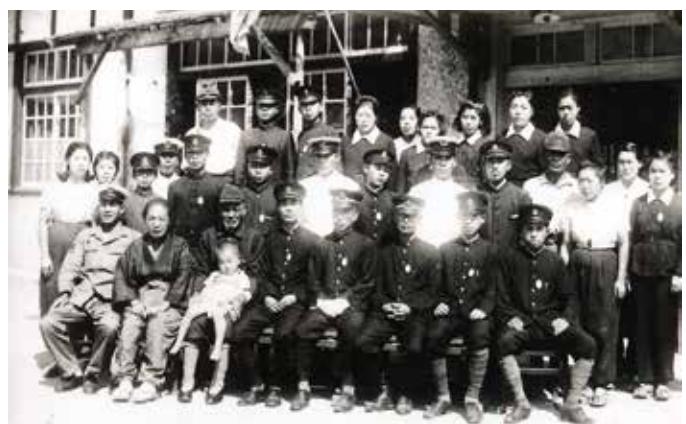
昭和42年頃  
現IHI運搬機械(株)である。  
平成24年に開業した「東京スカイツリー」建設の大型クレーンを製造した会社である。



昭和40年後半  
駅北から中央地区を臨む。40年代中頃から各工場が進出してきた。



昭和7～9年頃  
三津内海駅建設測量隊が内海亀山八幡神社で  
写した記念写真。



昭和19年  
安浦駅職員と日通職員。



昭和35年頃  
駅北から帝国製鉄と安浦中学校の校舎を望む。S Lが走り駅北は田園が  
広がっている。



昭和35年頃

帝国製鉄は昭和32年創業の木炭銑と  
鋳物＆製鋼用銑鉄を造り、最盛期は  
全国シェアの60%を占めていたが、  
昭和41年に閉鎖された。



帝国製鉄ができるから、安浦駅から元イズミの横を通って専用の貨物引き込み線が引かれていた。



昭和38年頃

帝国製鉄事務所（現在の三津口分館）  
と製品の木炭銑（通称ナマコ）。



昭和25年頃

広島医科大学予科の学生と教職員の記念写真。終戦後は都市部の校舎が焼失したため、安浦の海軍施設に移転して授業再開された。



広島女高師付属中学校のありし日の生活。



昭和24年 広島女高師本庁舎。



昭和53年

当初はただ1棟焼け残った旧安浦海兵团本部庁舎を、竹原高校安浦分校として発足した。豊田高等学校の前身となった。



昭和40年頃の安浦町庁舎  
昭和35年11月火災により焼失、昭和36年11月新安浦庁舎が再建された。



昭和41年  
安浦駅前に安浦消防団の防火アーチが設置された。当時は火災が多く発生していたため、意識改革のため、消防団幹部が自己負担と補助金で造った。



昭和42年  
旧国道185号線小河石油前交通安全パレード。

昭和46年  
安浦町初代救急車が導入された。



昭和42年頃  
交通指導員による安浦駅前の交通安全指導風景。



昭和38年頃の出初式による整列と放水風景  
安浦消防団は、ボランティア精神で町民に奉仕し、仕事を持ちながら訓練に励み、防火・防災に務められている。



昭和40年

移動図書館みのり号が町役場横の広場に毎月1回定期訪問し、本の貸し出しをおこなった。借りいれ期間は約20日であり、皆が利用した。

昭和42年の敬老会受付風景

中学校体育館で婦人会主催の敬老会が行われ、75歳以上の350人を招待、歌や踊りなどで盛大にもてなした。



昭和40年前半の電話交換作業

昭和44年には安浦の電話自動化が始まり、この交換作業もなくなった。



昭和40年

国鉄の時代には、線路の保線区が専門にあり、線路の保線・維持管理に務めていた。写真は官舎とその家族。



昭和21年頃と思われる  
安浦海兵团本部の建物。  
終戦後の海兵团建物は、多くの  
学校に使われた。



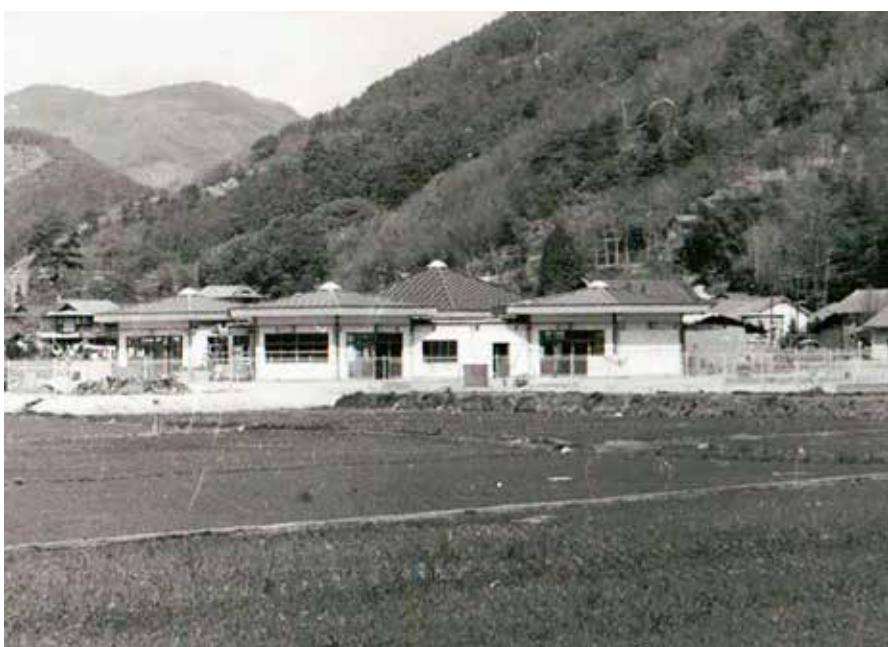
昭和47年の三津口湾水門工事

従来は沼地であったが、現在は貯水池・月見公園と立派な水門ができている。



平成元年（昭和63年）

国道185号線安浦バイパスで三津口～水尻間が開通した。パレードには旧三津口小学校金管バンドを先頭に塩谷の大成さん一家3代夫婦が参加し、約100名が晴海大橋の渡り初めを行った。



昭和42年頃の内海保育所

当時は駅裏にあり、平屋建で6棟が寄り添って建つ斬新な建物であった。



昭和42年頃の駅前通り  
朝の通勤・通学者たちが道路を渡っている。



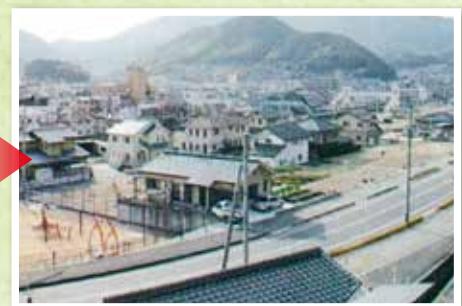
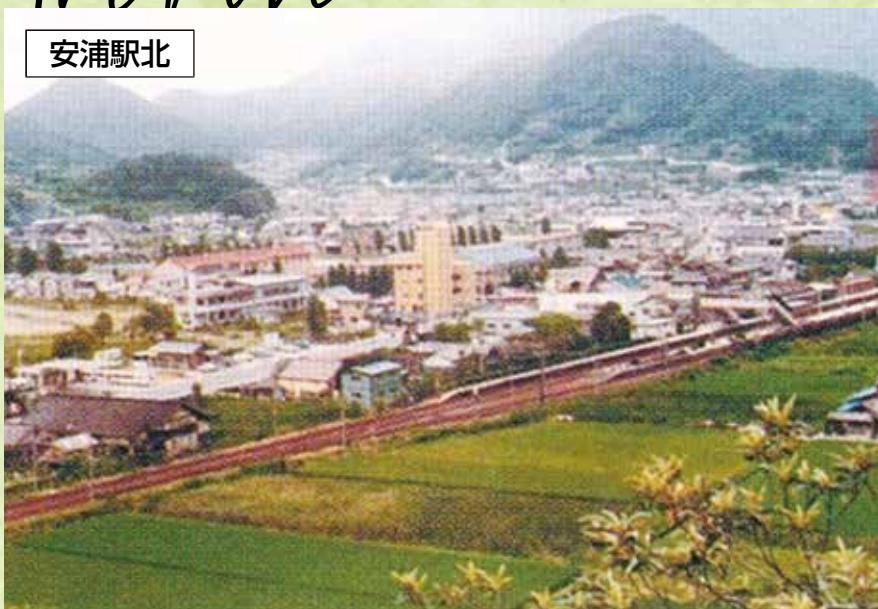
昭和39年の安浦駅



昭和37年の安浦駅ホームと渡橋

# Archive

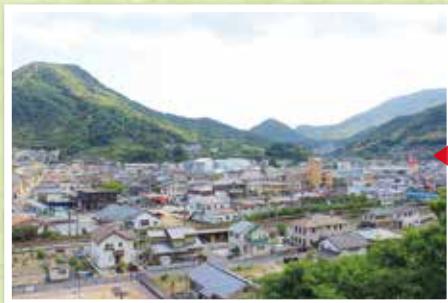
安浦駅北



昭和53年

田園が残り安浦中学校旧校舎も見える。

## 中央・駅北地区



昭和24年頃の安浦駅前

安浦海兵团兵舎跡に広島女子高等師範学校が移転した頃の風景。

安浦駅付近海兵团宿舎



昭和26年

内海の有志5～6名が立案し、町の資金協力を得て蔵書の拡大や建物を造り、図書館的な役割を果たした。(当初は有料で貸し出していた。)



昭和10年代後半

駅前の旧185号線付近と思われる。三津口青年団らによる道路修理風景。当時は各種団体による奉仕活動が盛んであった。



昭和9年の安浦駅（当時の呼名は三津内海駅）

線路の敷設工事写真。当時の駅周囲は民家がほとんどなく、田圃が広がっていた。また、工事作業員は男性だけでなく女性も参加していた。



昭和33年頃の安浦中学校風景

現IHI運搬機械安浦工場の敷地にあった。当時は安浦海兵团の建物が校舎であったが、2度の火災により旧三津口小・旧内海小の間借り分散授業が行われた。

# Archive

安浦駅前通り



昭和11年頃の安浦駅前通り（現市民センター前）

内海地区は明治～大正にかけて織物が盛んで、内海絣の特産地で備後絣と並び称され、駅前通りには木綿工場や倉庫が立ち並んでいた。



昭和45年

右下に帝国製鉄の引き込み線が見える。



昭和31年頃

蒸気機関車が走り、駅北地区はほとんど田園であった。

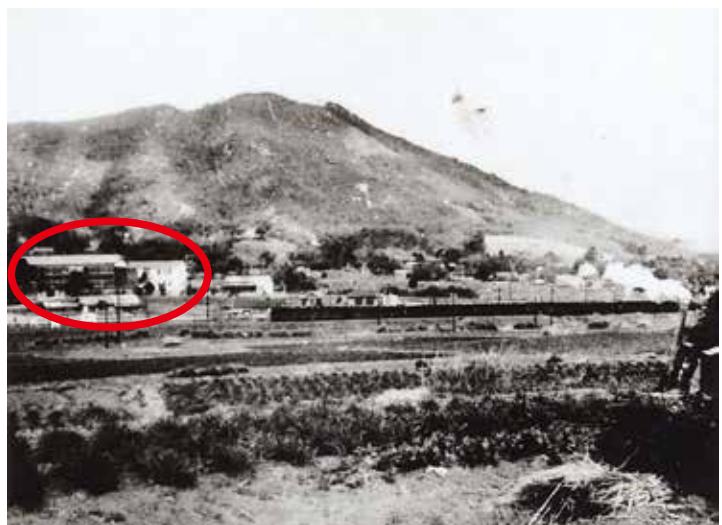
**中央・駅北地区**



昭和50年初期  
引明池付近から奥条地区の農作業風景、稲を脱穀した後の作業と思われる。



昭和45年  
安登駅跨線橋完成で安登小学校の  
鼓笛隊が演奏している。



昭和35年頃  
安登駅近くを走る S L列車、左側に安登駅（下側）  
と小学校（上側）が映っている。



昭和30年頃  
安登小学校と安登中学校の合同  
運動会風景、後方に見える丘は  
現在の安登運動公園位置である。

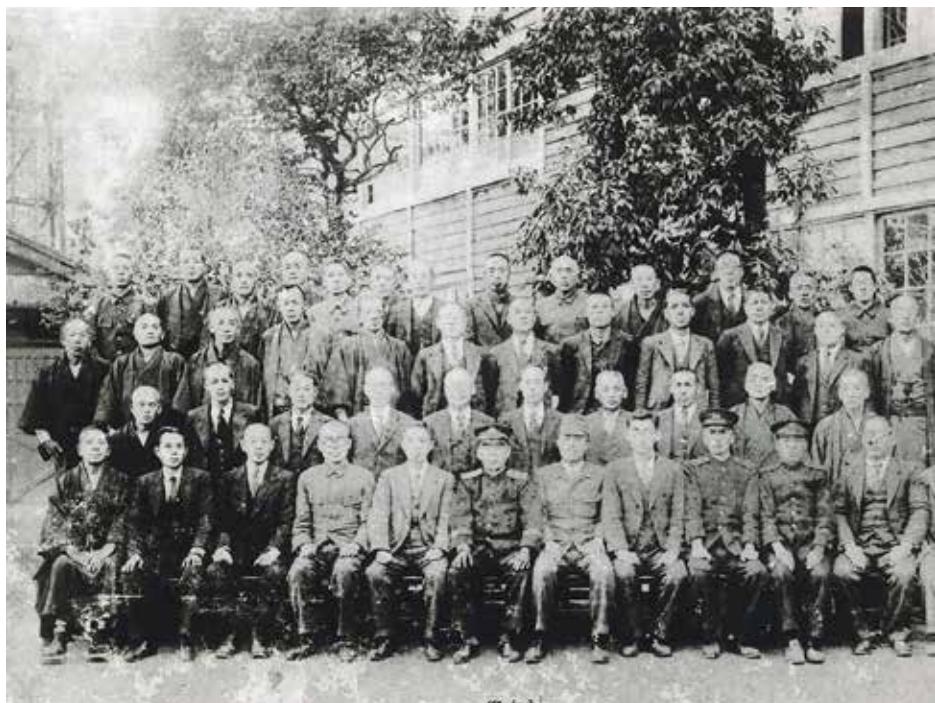


昭和50年頃

旧安登村庁舎であるが、安浦町との合併後は集会所として使われていた。場所は安登小学校から道を挟んで北側にあった。

昭和33年

安浦町と安登村合併議員会の記念写真。



昭和50年頃

安登小学校校舎と給食室、中央（○印）は藤棚と防火水槽があった。昭和55年に新校舎が完成。



昭和37年国道185号線工事現場

安登～川尻間で川尻側から見た寒風峠、小用地区への引き込み道路が見られる。



昭和43年頃の国道185号線寒風峠

旧国道沿いに初期のゴミ焼却場が見える。



昭和40年前後  
電化前の安登駅



昭和60年頃の駅前駐輪場  
現在の2階建て駐輪場は平成8年に完成した。



昭和50年前後

線路を挟んで跡条から見た日之出木工（現ダイクレ）入口の風景、山肌は大きく削られており、民家が見られる。



昭和40年頃

安登・跡条地区の沖信濃住居跡、  
沖信濃は鎌倉時代の武将で安登地区に土着したと言われている。現在は墓地になっている。



昭和54年頃

安登中央ハイツ造成初期で、まだ山の形状が残っている。

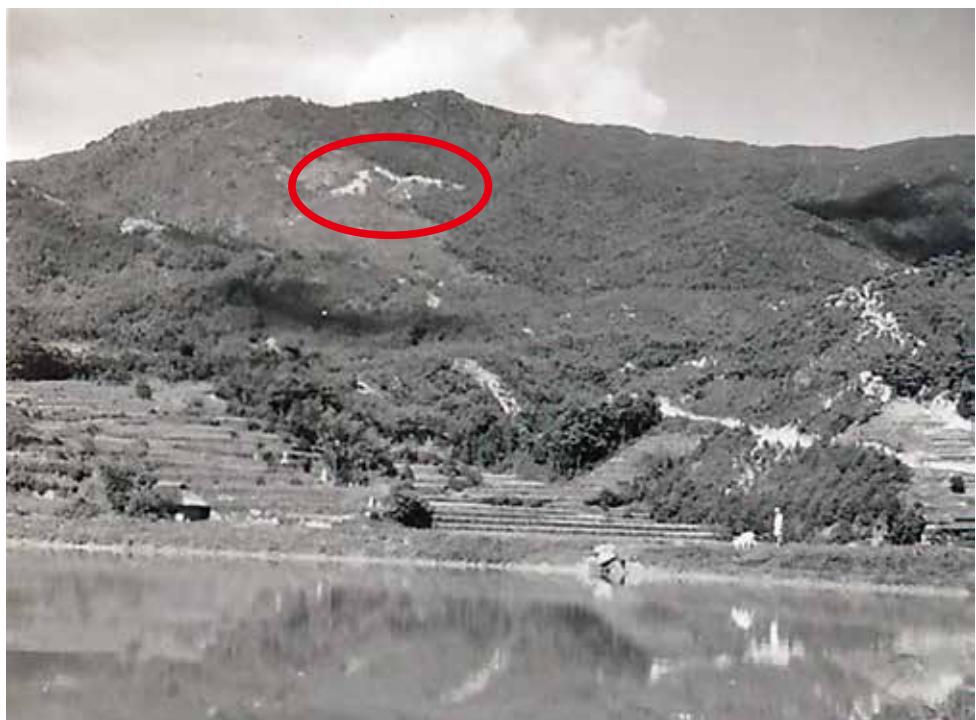


勘定神社の両脇社、昭和50年前後と思われる いずれも萱ふきで昔の面影を残している。

左：招魂社（昔の勘定神社本殿）右：大元八幡神社、中央にあるのが大元八幡神社に祀られている腰掛石。

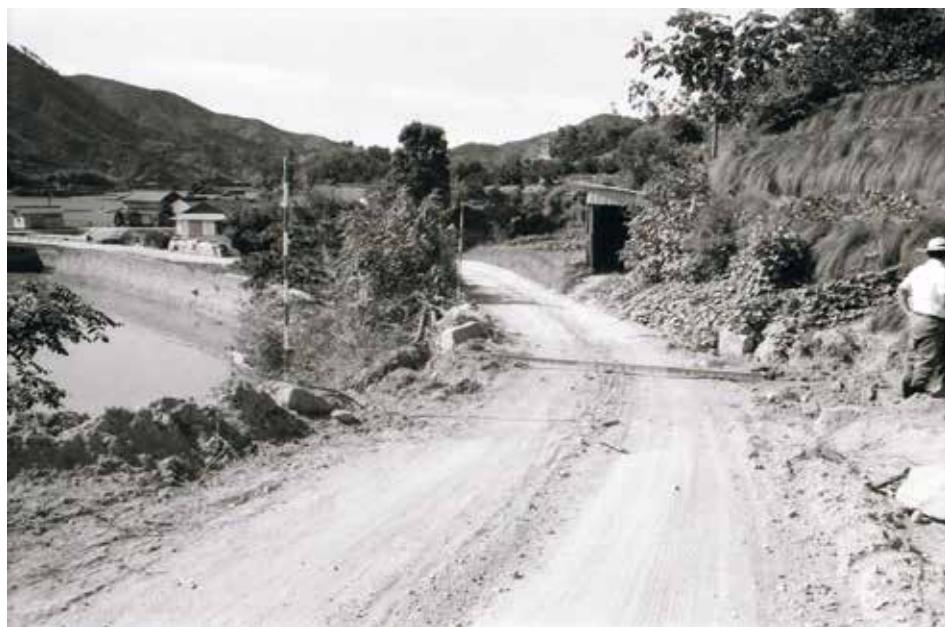
昭和40年頃の小田野原団地造成前

引明池の湖面と野呂山馬の背。  
現在は、木々が生茂り馬の背形状は見えない。



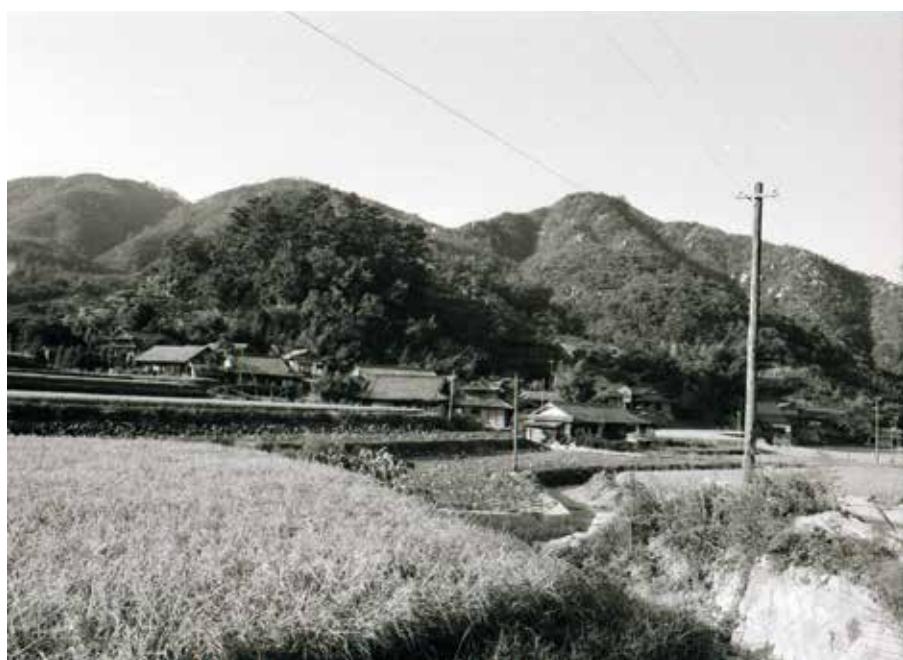
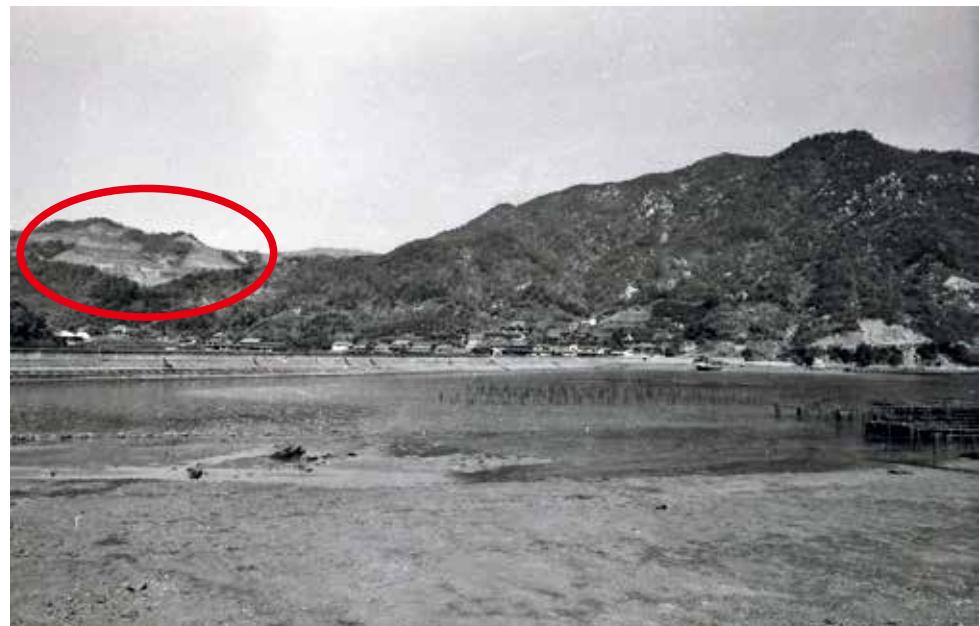
昭和50年代初期

グリーンピア安浦ができる前で、正面右上に段々畑とスクモ山、一本松の鼻が写っている。スクモ山は富士山に似た美しい山で安浦三富士の1つである。



昭和40年頃の日之浦入口  
昭和39年日之浦～塩谷地区まで道路ができ、この完成により沖の手地区の交通が便利になった。

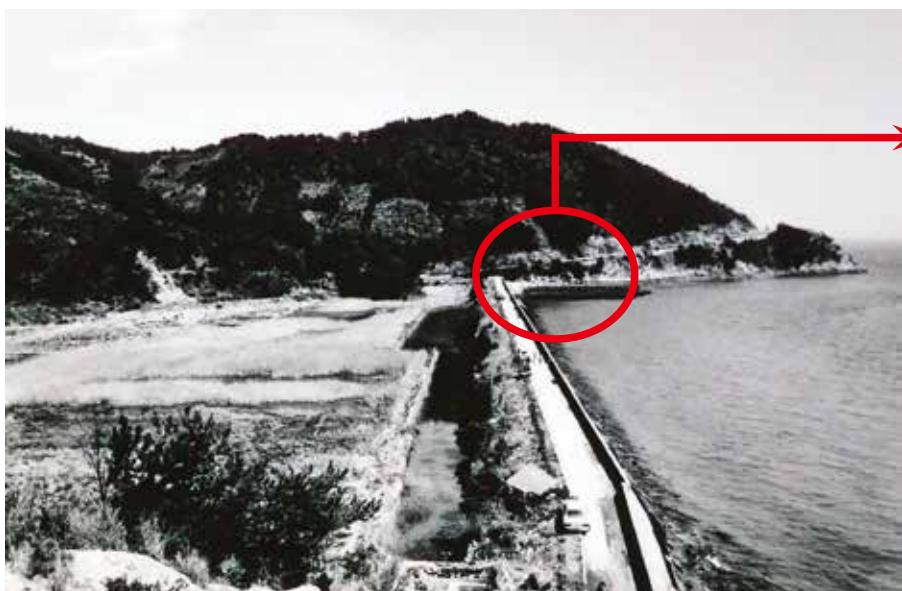
昭和43年頃  
日之浦地区海岸堤防と日之浦湾の干潟、左上部に造成中のゴルフ場が見える。  
呉カントリークラブは昭和46年開場。



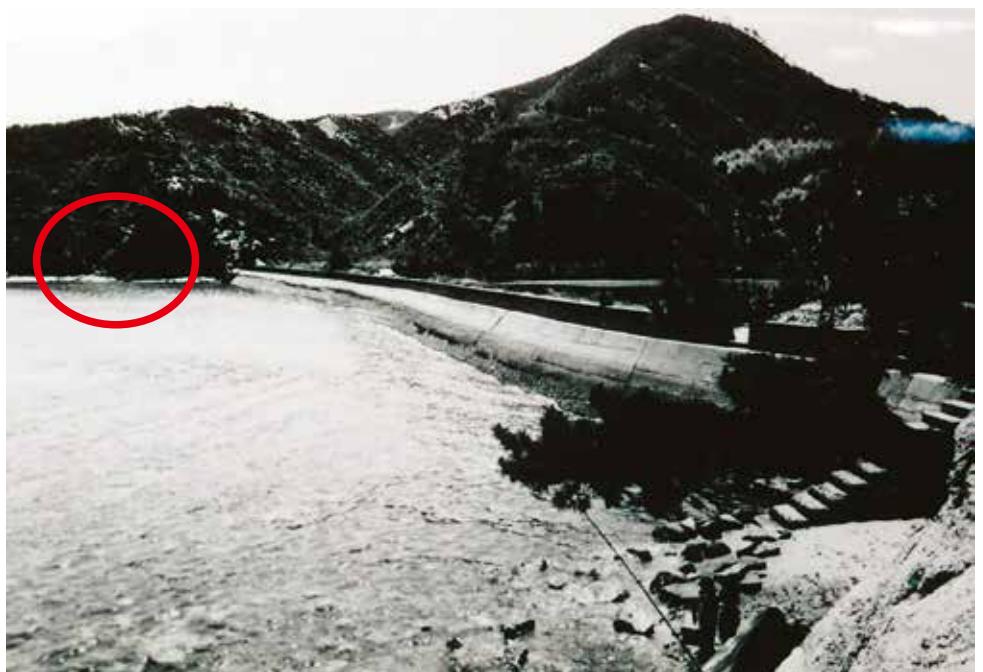
昭和50年代の日之浦地区棚田  
民家の道を通って登って行くと、安登地区へ通じる道がある。



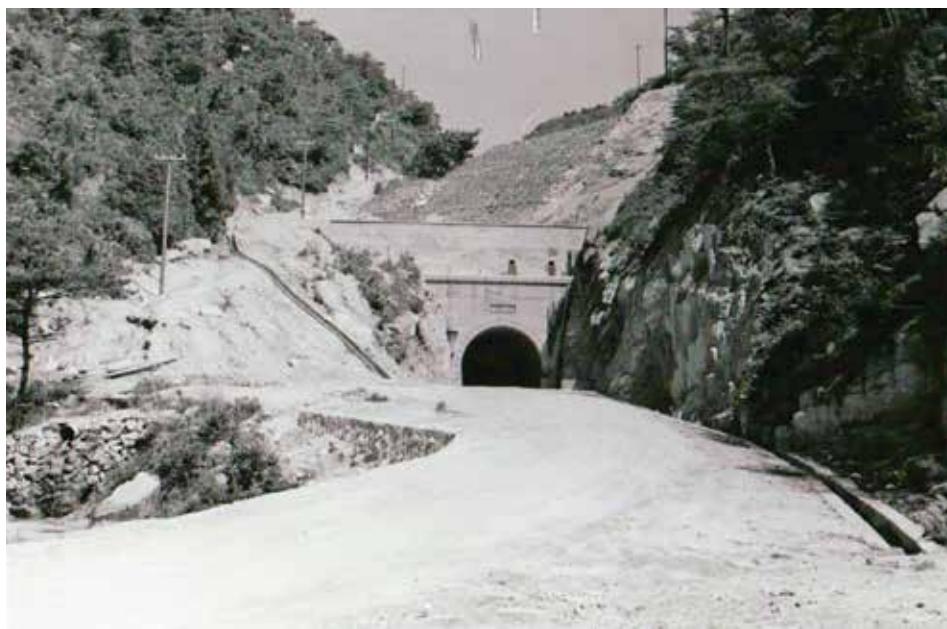
昭和40年代初期  
小島浦地区の小島川河口と田であり、数軒の農家が米や柑橘を栽培している。



昭和50年代前半の大泊地区  
昭和37年から4年の歳月を懸けて大泊地区まで道路と堤防が造られた。堤防の内側はまだ干拓地の面影と貯水池があり、海面にはカキ棚が設けられていた。



昭和50年代前半の大泊地区  
正面左側○印に西行庵がある。



昭和39年

日之浦開拓道路が4年の歳月をかけて完成、陸の孤島と呼ばれた日之浦・小日之浦・仕方・塩谷を結ぶ、幹線道路となった。今まで船で運んでいた収穫物も車に変わり、時間も短縮された。



昭和42年7月集中豪雨による  
日之浦堤防決壊の復旧作業  
当時は災害発生時には行政とともに、付近の住民皆が総出で復旧対応していた。



昭和40年代

沖に見えるのは湯桶の口島で、岩礁の上に数本の松が自生していた。また、大潮の干潮になると陸続きになり、歩いて渡れる。



昭和50年頃の高飛神社

平成3年9月の台風19号で本殿が流出し、現在は鳥居のみである。また神社に陸路から行くことはできず、船上からしか見えない。

昭和50年代前半仕形地区

グリーンピア安浦の駐車場工事前、正面の石ヶ瀬山は江戸時代三津口村と内海跡村との境にあって、村の境界が争われていた。



昭和50年前後と思われる  
仕形地区にまだ民家があり、大泊行  
のグリーンピア安浦の工事中と思わ  
れる。



昭和50年代  
久多田海岸の前を通って東に進む  
と、池の浦・小島浦に至る。

昭和40年前半の塩谷地区のグ  
リーンピア安浦買収前の風景  
山の麓に民家が点在しており、  
中央部は田圃が広がっている。



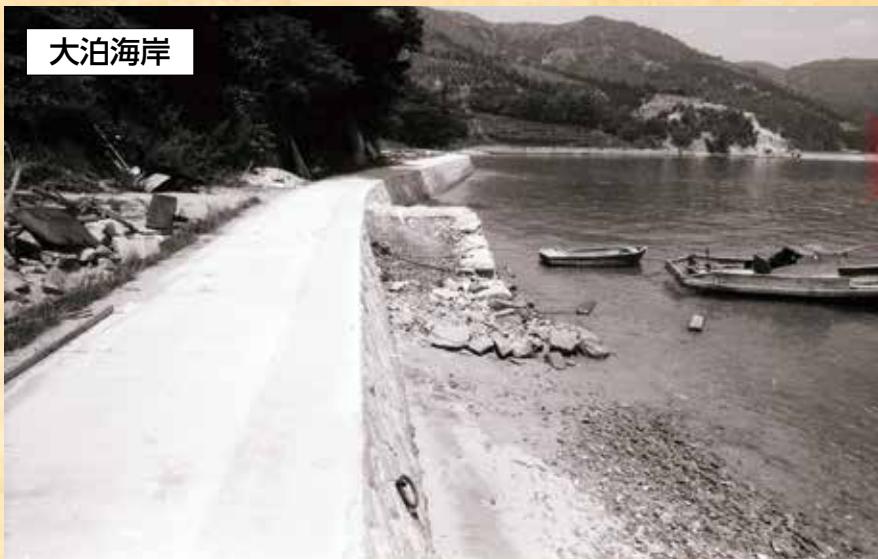
# Archive



昭和40年安登駅前交通安全指導風景  
当時駅前は多くの商店で賑わっていた。



昭和41年頃の勘定神社前  
国道185号線はまだ交通量が少なかった。

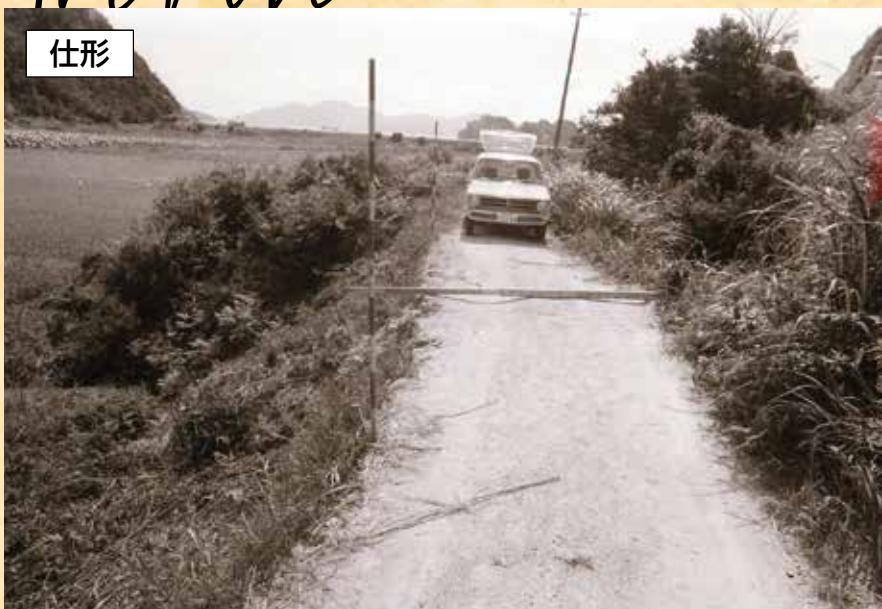


昭和45年頃  
山頂までミカン畑が広がり、住居もあった。また海岸には農耕船で通っている人たちもいた。



# Archive

仕形



昭和45年

第11空廠に接収された軍用地から、戦後開拓され柑橘類や里芋などを生産し、住居も点在した。



安登久多田海岸

昭和20年前後と思われる  
山の上まで畑が開墾されている。



昭和25年

現在の安登歯科クリニックの場所、当時の安登村には早くから国保診療所が設置されていた。

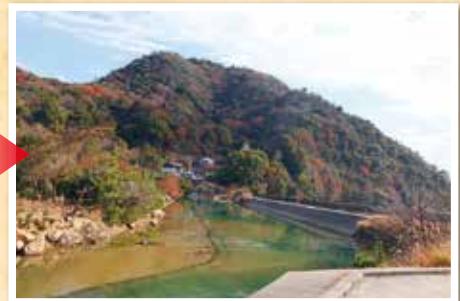
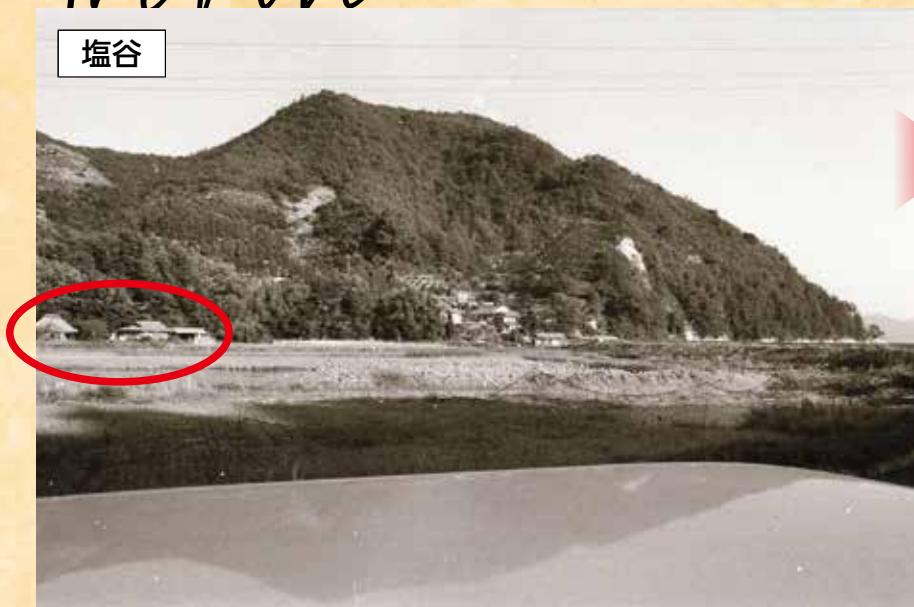


昭和40年代前半

団地や工場が進出する前は静かな寒村であり、山の中腹まで耕された段々畑があった。



塩谷



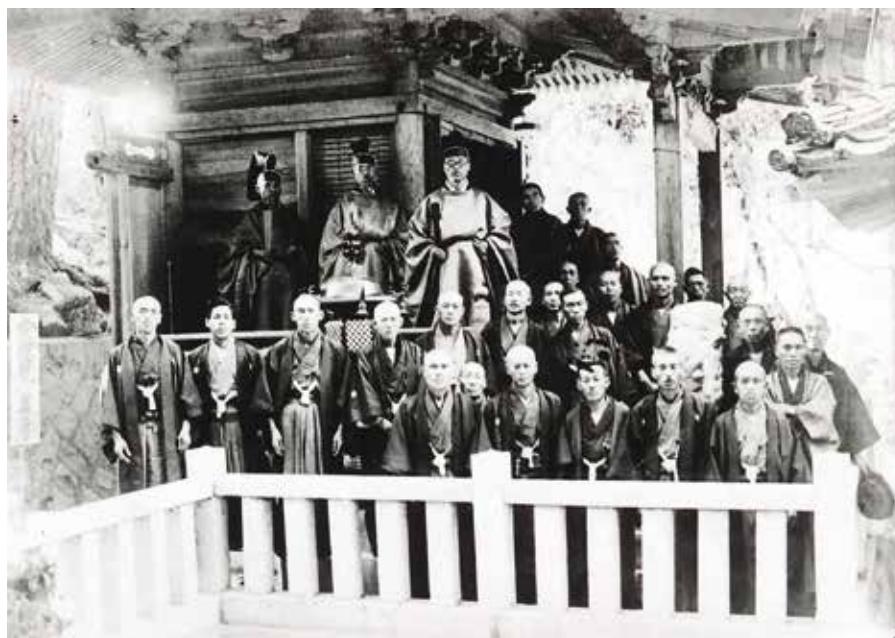
昭和50年前後

塩谷地区はグリーピア安浦建設のため買収されたが、この写真は古い塩谷地区であり、広大な沼地と撤去前の民家（○枠内）が写っている。



昭和40年初め頃と思われる

安登中学校の跡地に日之出木工が進出し、食器棚などを製造していた。まだ正面（○印）に安登村公営住宅が写っている。



昭和12年

原畑・山口神社の祝詞殿落成記念、参列者は男性のみで羽織袴の正装で参列している。



昭和40年

原畑・岡本家旧宅・江戸時代の面影を残す代表的な民家であったが昭和49年解体された。



昭和初期頃

原畑説教場、現在は盆のみ説教が行われている。



昭和40年頃  
原畑の旧集会所と公徳碑。



昭和40年頃  
原畑薬師堂の森、この薬師堂は廢正徳寺の跡に建立され、  
病氣平癒の手すり石が伝えられている。



昭和42年頃  
7月豪雨で荒れた原畑の水路と、内平地区遠景であるが、中切～市原の道路と上部中央に1本杉が見える。



昭和46年  
当時内平地区では花木栽培が盛んで、説教場で市がたち、全国から愛好家が集まってきた。



昭和25年頃

大将軍山頂上から内平遠望を写したもので、山裾まで田畠が造られていた。



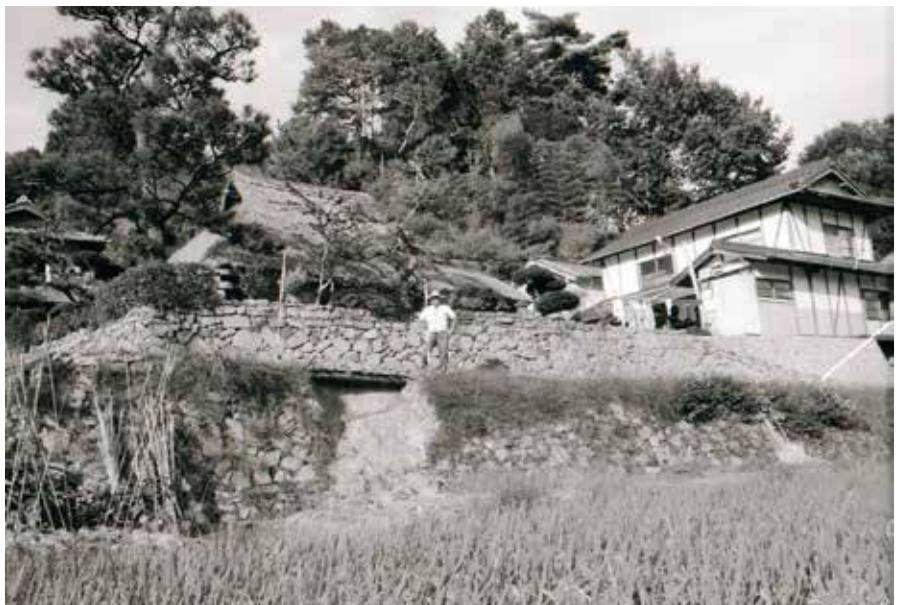
昭和26年

内平あけぼの会により「内平音頭」  
が制作され、発表会が行われた。



昭和55年頃

旧野路北小学校の2階建て校舎が見える。



昭和40年頃  
赤向坂武田家の母屋と納屋。



昭和25年  
赤向坂白稻地区に灌漑用ため池、通称「新池」の建設工事。



① : 藤木・堂敵神社（地神さん）  
② : 赤向坂・堂前神社（力石）  
③ : 赤向坂・糺平神社（山の神）  
④ : 赤向坂・（田の神～根古神さん）

赤向坂地区は昔から石の神様が祀られている。



昭和30年頃  
県道内海三津線からみる女子  
畑の助谷地区、道路は未舗装  
である。



昭和36年

女子畑地区の家で行った葬儀。当時、  
葬儀センターなどではなく自宅もしく  
はお寺でするのが一般的であった。



昭和初期

女子畑・女川内神社の奥の山中にあり。前記女川  
内神社の山の神として古くから祀られていたと考  
えられる。  
山間にある小さな祠は数軒で維持管理し、郷中安  
全・無病息災や五穀豊穰をお祈りしている。



昭和30年頃の旧野路東小学校校舎  
寄棟の板壁作りで立派な校舎である。



昭和30年代女子畠助谷地区  
道路は未舗装で藁ぶき屋根の農家  
が写っている。



昭和40年代の女子畠地区正立寺  
1165（永万元）年頃といわれる会期  
仏觀音が寺内に安置されている。



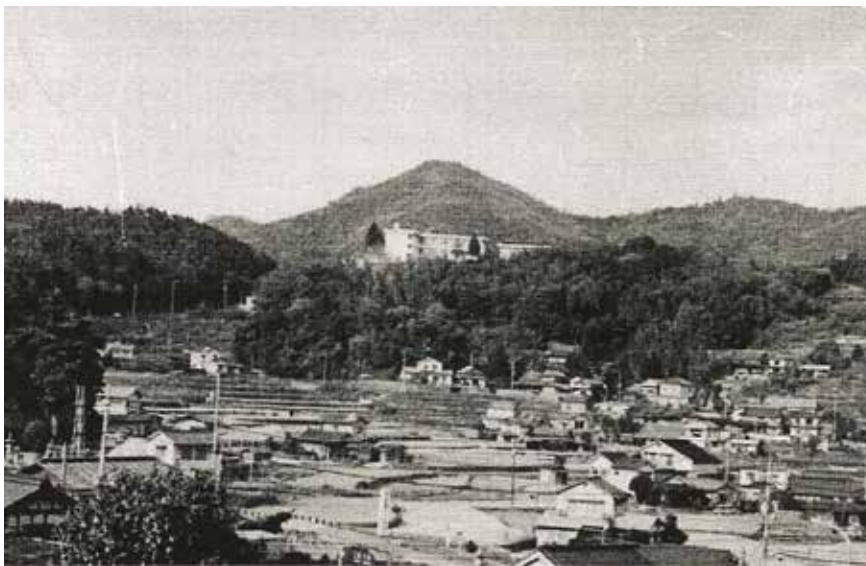
昭和39年の旧中切小学校運動会  
当時の運動会では男子組体操が花形  
であった。高学年が造ったピラミッド。



昭和39年  
中切・梶谷橋付近の旧国道185号線。  
両側1車線で中央に表木山（安浦三富士の  
一つ）が見える。



昭和41年  
安登境の国道185号線交通安全パ  
レード。



昭和58年頃

中切地区の風景、中央に3階建の旧中切小学校が写っている。



昭和40年代中頃

中切・森神社であり、普段の管理は地区的老人会が担っている。



昭和17年

旧野路西小学校運動場起工式、中畑・市原地区の青年団と婦人会・生徒など、携わった人たちが参加した。



昭和初期頃  
藤登家は野路地区の代表的な農家で、  
藁ぶき屋根の棟は瓦ぶきとなっていた。



昭和16年頃  
円照寺先代住職と警防団及び国防婦人会による防災訓練の記念写真



昭和17～18年頃  
中畑地区では青年団による村芝居が盛んに行われていた。左は「森の石松」、右は「君の名は」と思われる。



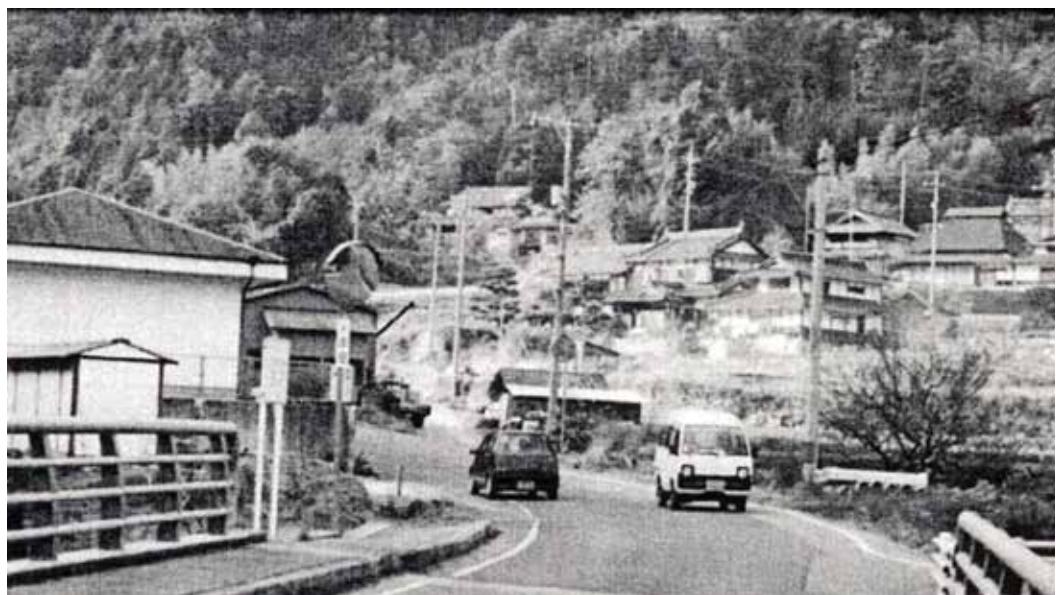
昭和63年  
県道矢野安浦線の中畑バイパスが開通し、通り初め式が行われた。



昭和45年2月18日  
野呂山で大火災が発生し170ヘクタールが焼失。強風にあおられて燃え盛る火に、陸上自衛隊が出動し19日まで延焼した。



昭和32年頃  
旧野路西小学校校庭での運動会であり、地域の老若男女が楽しんでいた。



昭和50年頃  
市原自治会館と周辺の風景。

昭和45年頃

昭和43年野呂山有料道路が開通されると、遊園地・国民宿舎・キャンプ場・レストハウスなどが次々とできた。写真はジェットコースターである。(昭和49年閉鎖)





昭和45年頃  
野路山伊音城弘法寺は真言宗の古刹で、中切地区住民により弘法大師の命日などには、護摩壇法要や火渡り法要が行われている。火渡りと護摩壇法要は一時期キャンプ場で行われていた。(昭和43年7月野呂山有料道路開通)



昭和21年の野路山開拓風景  
同年5月野路山に71戸294人の開拓団が入植し、開拓が始まった。



昭和33年の野呂分校と授業風景  
川尻小学校野呂分校は昭和45年3月廃校になり、児童はバスで安登小学校へ通学した。

藤木



昭和45年藤木地区

下側に映っているのは工事中の県道内海三津線。



女子畑



昭和40～41年地域の女性が協力しあいながらの田植え

農作業にはまだ牛が活躍していた。



昭和45年

野呂川ダム建設の仮設橋と思われる。護岸はコンクリート打ちされているが、橋は未舗装で橋脚は丸太で作られている。

# Archive



昭和3年

この年、天皇陛下への献上米作付のため、地域をあげて特別な田植えが行われた。



昭和42年

安浦～安登間の赤仁田付近を走る通勤列車。



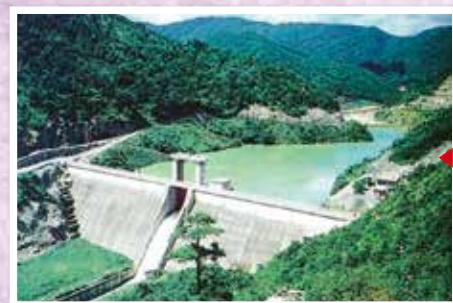
昭和40年代後半と思われる

女子畠の棚田風景で、入母屋造りの母屋と納屋、山手には藁屋根の半屋(農作業小屋)が写っている。

中切峠条



昭和40年頃と思われる  
のどかな田園風景が見られる。



野呂川ダム

昭和45～46年頃のダム工事初期

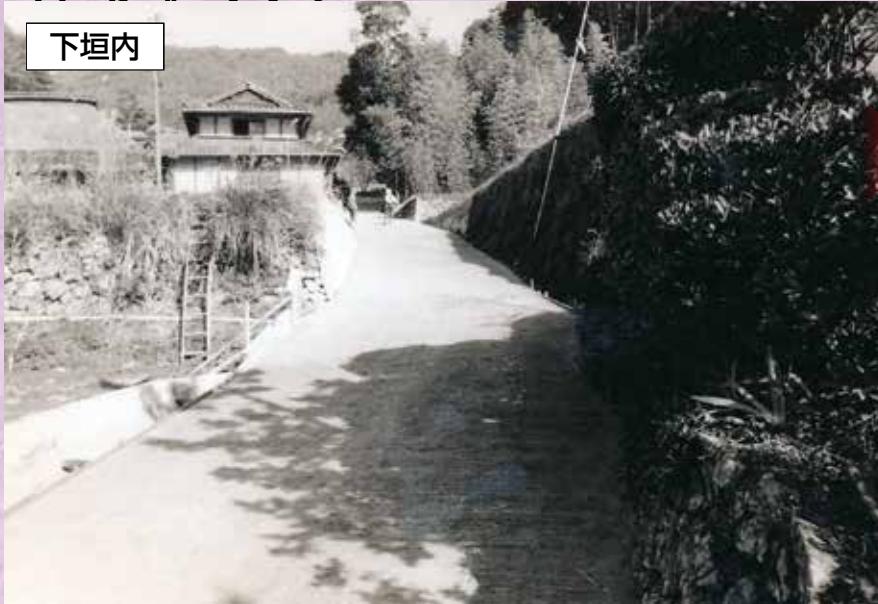
谷底は打田ヶ原・野呂川と旧道が見える。

旧野路西小学校校庭



昭和30年代中頃と思われる  
旧野路西小学校の運動場で撮影された  
集合写真。後方は当時の中畑地区。

# Archive





昭和35年

野呂山は身近なハイキング地であり、林内には宿泊や休憩ができる山小屋があった。周囲の谷筋には小川が流れ、飯盒炊爨や小屋前の広場でバレーボールなど若者が楽しんでいた。



昭和15年国防婦人部会による農作業風景

当時農村は山の中腹に民家が建てられ、平坦地は田や畑だった。また各地に国防婦人会がつくられ、食料増産に務めていた。



昭和32年の旧野路東小学校

手前の建物が体育館・奥の建物が校舎で、立派な石門が特徴である。

## 写 真 協 力 者

	氏 名 ・ 名 称	発 行 元
写 真 提 供 者	上田 勝則	
	上本美代子	
	木村 光弘	
	隅垣内明憲	
	松田 和幸	
	山根 周志	
	安浦町史編さん提供写真（未使用分）	
参考 文 献 ・ 資 料	いなしの軌跡（写真集2009年3月発行）	緑の里いなし運営協議会
	きんもくせい中央ハイツ15年のあゆみ（平成16年3月発行）	中央ハイツ自治会
	安浦町史（通史編・平成16年3月発行）	安浦町
参 考 文 献 ・ 資 料	安浦町史（地史・民俗編・平成13年3月発行）	安浦町
	安浦の風（平成13年7月発行）	安浦町
	時模様（平成6年1月発行）	安浦町教育委員会
	教育委員会-社会科資料	安浦町
	YASUURA91資料編	安浦町
	安浦町文化財案内（昭和59年発行）	安浦町教育委員会
	広報やすうら	安浦町
編 集 委 員	安浦町の展望（昭和38年6月発行）	中国観光地誌社
	桐山 千歳	
	竹田 敏彦	
	藤岡 牧子	
	二神 愛美	
	山本 磨郎	

### 編 集 後 記

昭和の時代が終わって35年、当時の生活も忘れかけているこのころ、私たちの安浦町でも人々や町中の風景も一変しました。今、当時を思い出しながら、安浦町史や今までに制作された安浦町の冊子、関係書籍などを参考にして、以前から提供して頂いた写真と情報を中心に一冊の写真集にまとめました。

写真の提供や情報収集に協力して下さいました皆様に、心よりお礼申し上げます。

写真の説明については、場所や撮影時期に誤差があったり、地域分類がしにくい場合もありました。ご了解頂ければ幸いです。

編集委員一同

# 安浦の昭和史

発行：2022（令和4）年3月

発刊：安浦町まちづくり協議会

〒737-2516 広島県呉市安浦町中央4丁目3-2

（呉市役所安浦市民センター内）

電話（0823）84-2261

印刷：株式会社 呉精版印刷

〒737-0822 広島県呉市築地町5-4

電話（0823）22-5011